



学校だより



校訓「質実剛健」

学校教育目標 「心豊かで自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

全国学力学習状況調査、県基礎学力調査(3年生対象 4月実施)の分析と改善策

本年度4月に全国学力学習状況調査(国語・数学・理科・質問紙調査)県基礎学力調査(社会・英語・質問紙調査)が行われました。全国学力学習状況調査では、生活に関して学習意欲、学習方法、学習環境などを問う質問紙調査も行われました。

本調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。以下に主たる分析と改善策をお示しします。

国語 県平均並み

特に正答率が高かったのは、「思考力・判断力・表現力 B 書くこと」である。正答率がやや低かったのは「知識及び技能(3)我が国の言語文化に関する事項」である。記述式で解答したり、文章を読み取って解答する力はあるものの、知識・技能を基に解答する力が弱い。語彙を増やすことや、基本的な知識の定着を図っていく。

- ・書写の授業で、行書と楷書の違いを再度確認し、書く際にはどのような点に気を付けながら書けばいいのか、確認しながら書くよう指導する。
- ・様々な文章を扱う際に、表現技法が使われている部分を確認する。また、授業で既に配布してある復習プリントや厚物等の教材を使い、適宜復習していく。
- ・説明文・物語文を読む際に、分からない単語が出てきた時には辞書で調べるよう指導する。また、慣用句やことわざ、故事成語などが出てきた時も同様に指導し、語彙を増やしていく。

社会 県平均を下回る

知識を問う問題は、概ね県との差はなく、基礎的な力は定着している。資料や図を基にして、考えたり説明したりする問題では、誤答や無解答の割合が高くなっており、記述問題を苦手としている。

- ・資料を活用して考える機会を増やす。具体的には、まずどんな資料や図であるのか理解し、2つ以上の資料を関連させて説明したり、発問に対して自分の言葉で説明したりする。
- ・資料からわかることを読み取るだけでなく、そこから予測できる課題や疑問を考え思考を深める機会を増やす。
- ・基礎的な知識の定着のために、小テストを定期的に行ったり、まとめを発表させる。

数学 県平均並み

「数と式」「図形」「関数」「データの活用」全ての領域において、全国平均を上回る結果だった。特に、知識・技能をはかる問題での正答率が低かったため、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りたい。さらに、自分の考えを説明する問題での無回答率が、県平均より高いため、考えを表現する機会を増やしていく必要がある。

- ・三角形の合同条件など考えの根拠となる基本的な知識を再度確認する。
- ・まとめや振り返りを書く際に、しっかり文章で自分の考えを書かせる。
- ・根拠を踏まえた説明の仕方を丁寧に確認し、なぜそうなるかを自ら考える習慣をつける。
- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、授業のはじめや終わりに適用問題や小プリント行う。

理 科 県平均並み

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」全ての領域において、全国平均を上回った。正答率が高かったのは、身近な事象についてこれまで学んだ知識・技能を活用する問題や地層の断面のスケッチから地層が傾いている向きを推測する問題である。正答率が低かったのは、これまでの知識・技能を活用し働く力を作図してその力を説明する問題や実験の結果が考察の根拠として十分か検証し、実験の計画を改善する問題であった。

- ・働く力を正確に書くことができるよう確認して繰り返し練習をする。作図で得られた力が何に働く力なのかを説明できるようにする。
- ・実験を班で計画し、実験し、結果が考察の根拠として十分かどうか検証する時間を設ける。十分でない場合、必要な実験を再度考え実験計画を改善する。解決したい問題について解決の方法を発想する際に、制御すべき要因と制御しない要因を区別しながら計画的に実験できる力を養っていく。

英 語 県平均を下回る

「聞くこと」の領域は概ねできていたが、長い文章を聞き取ることに関しては正答率が低かった。

「読むこと」「書くこと」をやや苦手としている。特に「読むこと」の領域で、あらすじや概要を読み取る問題や、読んだ内容について順番に並べかえる問題の正答率が低かった。「書くこと」の領域において、場面に合った返答をする問題や状況に応じて適切な英文を書く問題の正答率が低かった。

- ・授業で文章の概要をつかむために必要なキーワードを見つけるトレーニングを行う。
- ・文章や絵のならべかえを行ったり、タイトルをつける等の多様な問題に取り組む機会を設ける。
- ・テストで類似問題を設定し、教科書以外の文章に触れる機会を設ける。
- ・設定した場面や状況に合う表現をすることができるように、ヒントを個人やペアグループなどの集団で思考を促し、全体で確認をする。
- ・主語と動詞の関係が理解できていないので、主語と動詞に注目させて文章を作ることができるようになる。

質問紙調査より

国県よりポイント(%)が高いもの

- ・学校に行くのが楽しい
- ・人が困っているときは進んで助けている
- ・困りごとや不安があった時に、先生や学校にいる大人に相談できる
- ・進んで地域の行事に参加している
- ・読書が好き

国県よりポイント(%)が低いもの

- ・計画を立てて勉強している
- ・将来の目標や夢を持っている
- ・自分と違う意見について考えるのが楽しい
- ・家庭学習時間
- ・学習した内容について見直し、次の学習につなげること
- ・授業で自分と違う意見について考えること
- ・平日1日当たりにスマホ等でSNSや動画視聴をする時間

- ・本校の生徒は、人が困っているときは進んで助けたいと思っている。また、自分が困った時は大人に相談できる生徒が多い。
- ・協働的に答えを導いたり課題を解決することは楽しいと感じているが、自分の考えを伝えることや、他の意見をじっくりと聴くことを苦手としている。自分と異なる考えに触れることで理解が深まり、視野が広がるという経験をさせることでその必要性を感じさせていく。
- ・試験直前や課題の提出日の直前にあわてて学習する傾向がある。普段から自分の理解の状況を振り返り、計画的な学習を習慣づける指導を行っていく。